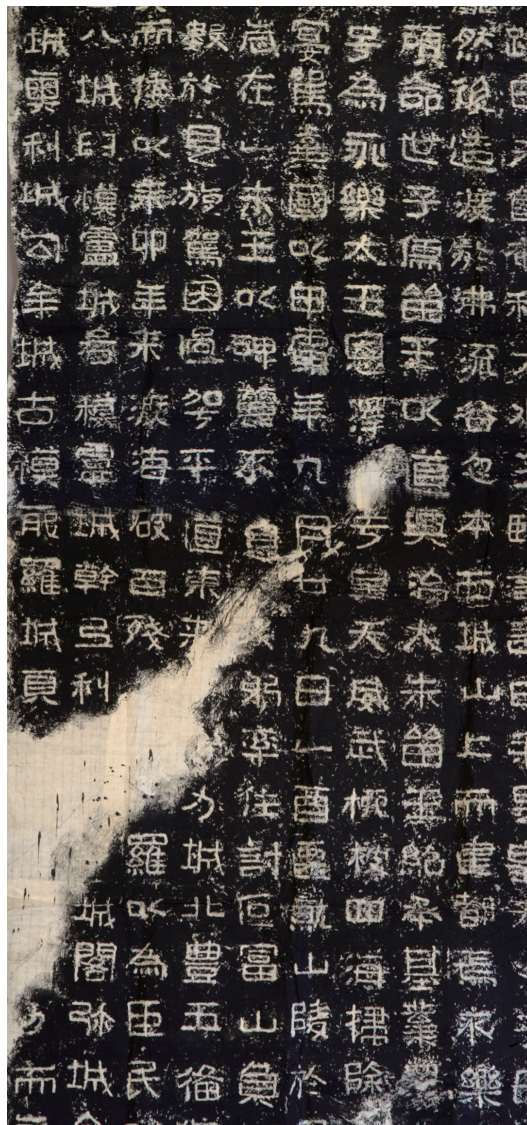


中国・朝鮮との交流（好太王の碑文）



* 県史編纂所史料2173「好太王碑文拓本」

解説

4世紀の日本については、中国の正式な記録にも記述がなく、「空白の4世紀」とか「謎の4世紀」などといわれます。

そういう状況にあって、当時の日本と中国東北部・朝鮮半島との交渉を知ることができる貴重な資料とされているのが、好太王碑文（広開土王碑文）です。

好太王碑は、414年に高句麗の好太王（広開土王）の業績を顕彰するために建てられました。石碑は、高さ6.34m、幅平均1.59mの不正形の方柱状の自然石で、現在の中国吉林省の鴨緑江中流の北岸にあります。約1800字が刻まれていますが、長年の風化により不鮮明な箇所もかなり見うけられます。

碑文には、倭や百済が高句麗と交戦したことが記されています。特に、391年（辛卯年）の「而倭，以辛卯年来，渡海破百残□□□羅，以為臣民」（而るに倭，辛卯の年よりこのかた，海を渡りて百残□□□羅を破り，以て臣民と為す）の部分（写真の左から3行目）は、よく知られています。

* 中国東北部からおこった高句麗については、中国の一地方政権とみなす中国と朝鮮半島の独立国家とみなす韓国（および北朝鮮）との間で、学術的な論争があります。

* この碑文にみえる「倭」とは日本のことではなく、朝鮮半島南部の伽耶（加羅）を指すとする説もあります。